木曽地方の温帯性針葉樹林の保存･復元に向けた取組第3回検討委員会概要

開催日時及び場所	平成26年3月4日（火） 14:00～　中部森林管理局大会議室
検討委員	青山　節児　（中津川市長） 飯尾　歩　　（中日新聞社　論説委員） 池田　聡寿　（池田木材（株）　代表取締役社長） 植木　達人　（信州大学　教授） 大住　克博　（（独）森林総合研究所関西支所　主任研究員） 志水　弘樹　（志水木材産業（株）　代表取締役） 田上　正男　（上松町長） 野村　弘　　（木曽官材市売協同組合　理事長） 早川　正人　（付知町まちづくり協議会　会長） 山本　進一　（名古屋大学　名誉教授） 山本　博一　（東京大学大学院　教授） 湯本　貴和　（京都大学霊長類研究所　教授） 横山　隆一　（（公財）日本自然保護協会　常勤理事） 検討委員13名 うち飯尾委員、植木委員、湯本委員は欠席
議事内容	（1）報告書（案）について （2）その他
概　　要	○　報告書(案)説明の後に意見交換を行い、一部修正（4(2)に区域面積を記載）を行うこととして報告書(案)は了承された。 なお、取組の名称について、地域住民等にも親しみやすい柔らかい名称が必要との意見が出され、管理委員会等での継続検討することとされた。また、名称は公募によることも検討してはどうかとの意見があった。 ○　委員からの主な意見は次のとおり ・伐採量が減ると生業に影響が出るが、そう言うだけでは木曽ヒノキを長く生産し続けることは出来ない。地元事業者としても今回の取組みに期待している。 ・人工林の長伐期の生産方法等について取り組むことにも期待している。 ・この地域は木曽ヒノキの生産が基幹産業であり、これと関わる技術の伝承も必要である。 ・地域との調和が保たれた取組となるよう期待しており、そのため地域としても協力したい。 ・今後の取組については、管理委員会が重要となってくる。報告書は、スタートラインに立ったところであり、いろいろな方面の意見を取り入れて進めて行くことが必要である。 ・長い年月をかけて議論出来るような仕組み、幅広い人が参加する仕組みを作っていく必要がある。そのためには、拠点となる施設が必要である。 ・市民や企業の支持や支援を求めるならば単なる保護林の管理だけでなく社会全体への貢献と理解してもらえる策と体制が必要。 ・世界中で環境の持続性が失われつつある中で、環境の柔軟性や復元性を取り戻す取組として世界に発信していくべきである。